

(様式 1)

「未来の担い手育成プログラム研究校」実績報告書 (2年次)

1 学校名等

学 校 名	綾部市立東綾中学校	校長名	野々垣 照美			
研究教科・領域等	全教科・総合的な学習の時間等					
研 究 主 題	学ぶ意義や目標を持ち、主体的に行動する児童生徒の育成 ～キャリア教育の視点を生かし、認知能力と非認知能力を一体的に育む授業改善～					
研究の目的	本校児童生徒の課題→ 東綾っ子・東綾生「ミニ博士(こはかせ)」計画 自分のよさに気づき、主体的に 行動する力 (こ) 地域や企業と協働し、他者に 働きかける力 (は) 学んだことを生かし、課題を 解決する力 (か) 見通しを持ち、将来を 設計する力 (せ) を重点的に育む。					
	1 授業改善 ～キャリア教育の視点(こはかせ)を取り入れた授業～ (1) 主体的に学ぶ生徒を育成する。【キャリアプランニング能力】 (2) 「主体的・対話的で深い学び」→課題解決型学習の実践【課題対応能力】:課題解決型学習をより効果的にすすめていくために、「工夫して挑戦する力」や「活用する力」を育成する。 (3) 新学習指導要領に沿った評価の研究 2 主体的に学ぶ生徒の育成 ～「8コマ学習」の定着・質の向上～ (1) 各教科からの宿題、小テストの実施等による自主学習のきっかけをつくり、家庭学習を終礼時に計画するサイクルの定着(提出率100%を常態化) (2) 頑張ったことがむくわれることを実感させる(家庭との連携、教科との連携)ことで、「自ら進んで学ぶ力」「あきらめずにやりきる力」を育成する。(非認知能力) 3 カリキュラム・マネジメント ～教科と行事をつなぐ～ (1) 「東綾っ子・東綾生のふるまい」を「未来の担い手として求められる資質・能力を身に付けた児童生徒の姿」として位置付け、具現化した内容を完成させる。 (2) 各教科で学んだことが、どのように取組(総合的な学習の時間・キャリア学習)や日常生活の中で活かせるのかを実感させる。教科と行事をつなぎ「実際に使える感」を育成する。					
学 年	1年	2年	3年	特別支援	合 計	教職員数 ※校長・教頭を含む
学 級 数	1	1	1	2	5	24
生 徒 数	10	12	11	12	45	

2 研究校の概要

(1) 生徒の実態

本校は平成29年度より、施設一体型の小中一貫校となった。

生徒は、学習に真面目に取り組むことができ、相手を思いやる人権意識も高い。保護者や地域も協力的で温かい。一方で、小学校入学時から、同一の小規模集団での学習・生活のため、多様な考えに触れる機会が少なく、互いに切磋琢磨し、高め合う厳しさやたくましさに欠ける

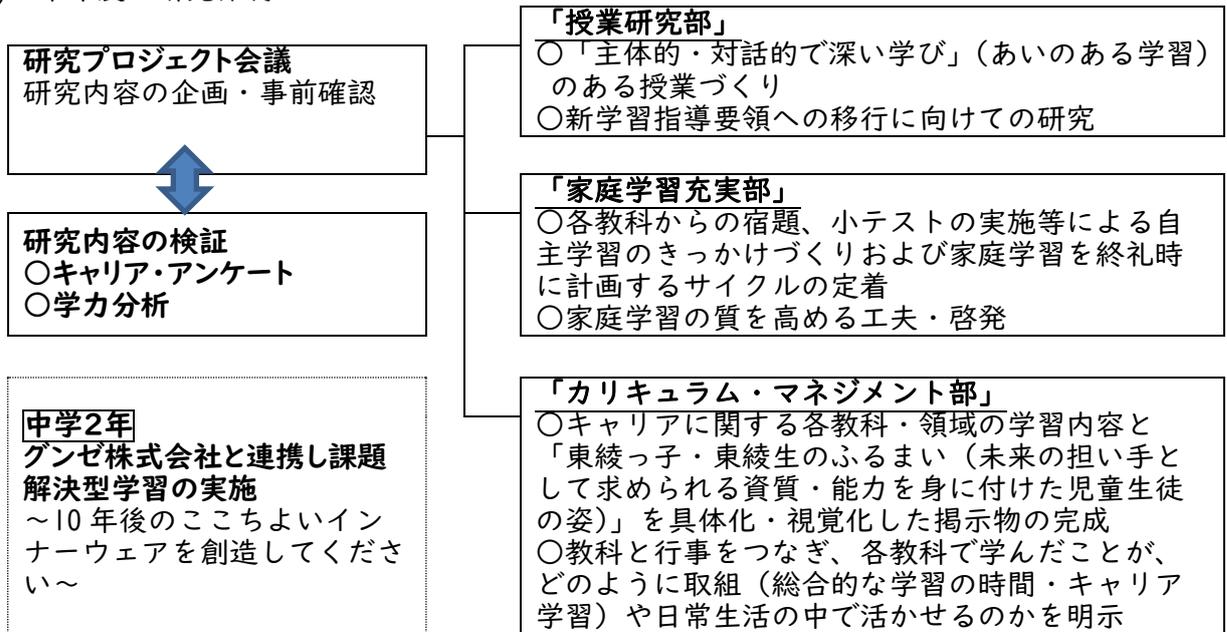
ところが見られる。

(2) 学力分析

中学 2 年生の学力を昨年度の京都府学力診断テストや CRT、本年度は中止となったが、昨年度の京都府学力診断テストを用いて分析を行った。国語では「文章を読み取る力」、数学では「見方・考え方」、英語では「理解の能力」に課題が見られる。また 3 教科とも特に「活用」の問題の得点率が低い傾向がある。

一方、非認知能力に関しては、全国学力・学習状況調査（小 6 時）の質問紙の結果によると「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の問いに対する肯定的回答が全国比より低く、「自分には、よいところがある」の項目でも全国比より低いといったように「自己肯定感の育成」や「工夫して挑戦する力」に課題があると見られる。

(3) 本年度の研究体制



3 主な研究活動

(1) 東綾小中一貫校研究部の取組

月	日	曜	会議名	内容等	備考
5	7	木	研究プロジェクト会議	本年度の研究方針確認	
	13	水	校内研究の日・部会	8コマ学習共通確認	
	27	水	校内研究の日・部会	指導案様式確認	
6	15	月	研究プロジェクト会議	校内授業研—事前研	校内授業研中止
	19	金	校内研究の日・部会	本年度の各部の計画作成	
7	22	水	研究プロジェクト会議	8コマ学習1学期総括・2学期に向けて	
	31	金	校内研究の日・部会		
8	24	月	研究プロジェクト会議	京都府学力診断テスト学力分析交流	
	26	水	校内研究の日・部会		
9	14	月	研究プロジェクト会議	カリキュラム・マネジメント～行事と教科をつなぐ～	
	23	水	校内研究の日・部会		
10	13	火	綾部市一貫教育報告会	授業公開《ドリームマップ—企業連携等》取組発表	中止
10	12-16	月～金	授業パワーアップウィーク	小中全教師が授業を公開し、お互いに参観	
	19	月	研究プロジェクト会議	カリキュラム・マネジメント～授業パワーアップウィークを終えて～	
	27	火	校内研究の日・部会		
11	16	月	研究プロジェクト会議	授業研究会(中1英語、中2国語、中3英語)	
	19	木	校内研究の日・部会		
	19	木	市教委計画訪問		
12	14	月	研究プロジェクト会議	8コマ学習2学期総括・3学期に向けて GIGA スクール構想について	
	25	金	校内研究の日・部会		

1	18	月	研究プロジェクト会議	授業研究会（小6：プログラミング教育）
	27	水	校内研究の日・部会	
2	4	木	校内研修	「あい」のある未来の教室推進プロジェクトより GIGA 研修
2	22	月	研究プロジェクト会議	年度総括・各部総括
	24	水	校内研究の日・部会	

(2) その他の研究

月	日	曜	会議名等	令和2年度計画	備考
1	18	月	校内研修	新学習指導要領実施に向けての評価	中学校
2	4	木	校内研修	「あい」のある未来の教室推進プロジェクトチームより GIGA 研修	小中

先進校視察：高槻市立第四中学校視察（昨年度より本年度へ、さらに来年度へ延期）

(3) 企業連携の取組（中2）

日 時	時 数	学習内容
9/24	1	課題を提示し、どのように情報を収集し、どのように課題に取り組んでいくのか見通しをもつ。
9/25	1	10年後の世界についてイメージさせ、課題解決に向けた視点をグループで明らかにし、グンゼへ質問する内容をグループで考える。
10/1	1	アンケート調査に向けて、質問内容、二次元コードを作成する。
10/14	3	グンゼを訪問し、博物館見学とインタビュー活動を行う。
10/15-30	8	アンケートの集計をし、その結果をもとに、10年後の心地よいインナーウェアについて意見を出し合い、グループで練り合い学習をおこなう。
11/2-3	2	中間発表に向けての準備を行う。
11/3	1	文化祭で中間発表を行い、1年生と3年生、保護者にも意見をもらう。*二次元コード
11/11	1	グンゼの社員に中間発表を行い、良かった点と課題点を指摘していただく。
12/16	1	指摘された内容を整理する。
12/18	1	指摘された内容を整理し、課題解決に向けて再度練り合い学習を行う。
2/16,19	3	最終発表に向けて、プレゼンテーションの準備を行う。
3/2	1	グンゼの社員、1年生に最終発表を行う。【撮影】

4 今年度の研究の成果と検証

(1) 授業改善

本年度はあらゆる教育活動の中で、キャリアの視点「こ（行動する力）は（働きかける力）か（解決する力）せ（設計する力）」を大切にしてきた。学習指導案作成の際にも、どのように「こはかせ」を育成するのかを明記した。また各教科の単元の前と後で、この学習は「何がわかるようになる・できるようになる」のか、「生活のどんなことにつながっている」のかを見通し、振り返ることを共通確認してきた。その結果、「正解のない問いへのアプローチ方法を考えたり、未知の状況に対応したりする力」について取組前と比べて自信につながったのではないかと考える。

また小中一貫校の児童生徒の「こはかせ」の力（「行動する力」「働きかける力」「解決する力」「設計する力」）にどのような変容が見られるかを計る目的で7月、12月キャリア・アンケートを実施した（3月に第3回実施予定）。各教科で課題解決型学習、キャリアの視点（こはかせ）での授業改善、企業連携学習（中2）やふるさと学習（中1）を通して、「正解のない問いへのアプローチ方法を考えたり、未知の状況に対応したりしている」という問いに対して、大きな伸びが見られた（「そう思う」と回答した生徒3→8）。

(2) 主体的に学ぶ生徒の育成

家庭学習を意識した授業構成を考えたことで、少しずつではあるが、家庭学習の習慣化につながっているのではないかと考える。

また企業連携の最終発表会を終えた直後の振り返りでは、特に「行動する力」「解決する力」について取組前と比べて自信が付いたと答える生徒が多く見られた。この状況から考察できることとして、二次元コードを使用してのアンケート作成・集計を通して「必要な情報を収集し、仮説を立てる」という経験や、プレゼンテーション資料の作成や発表を通して、「自分た

ちの考えをまとめて、わかりやすく伝える」という経験が自信につながったのではないかと
思われる。また、答えのない課題、「終わりが見えにくい学習活動」に取り組んだことにより、
「正解のない問いへのアプローチ方法を考えたり、未知の状況に対応したりする力」に自信
がもてるようになったのではないかと推察する。

(3) カリキュラム・マネジメント

本年度は、行事と教科の連携が大きく進んだと言える。校内研修で文化祭の合唱の取組に
向けてカリキュラム・マネジメントを行った。音楽、英語、社会、国語で学習した内容を、文
化祭での合唱発表につなげることができた。

中学2年生の企業連携の取組の中で、二次元コードを用いたアンケートを実施した。保護
者に配布するだけでなく、他中学に協力を求めたり、学校ホームページに掲載したり、綾部
市民新聞に取材をしていただき、紙面に二次元コードを掲載していただいたりした。その結
果、900を越える回答を得た。小規模校なので生徒や保護者だけでは客観的な統計データを得
ることは難しい。グンゼと連携して学習を進めていることを地域や綾部市民の方々に広く
知っていただけたことは大きな成果と考える。

また、初年度の昨年と比べると、教師自身が取組の流れが把握できていたので、見通しを
持って計画を立てることができた。教科との連携（理科・社会・技術）や、昨年度の調査の課
題であった、アンケートの母数の少なさについても、二次元コードを用い、広く協力を募るこ
とで多くの回答者を得ることができた。そういった企業連携の取組を、教科との関連を図っ
たこと、多くのデータの収集・集計・分析を行い課題解決学習に深まりと広がりを持たせる
ことができたことが大きな成果である。来年度は1人1台のタブレットを活用することで、
さらに違う工夫が考えられる。

5 今年度の課題

(1) 授業改善にかかわって

キャリアの視点（こはかせ）に焦点を絞り共通確認し、授業づくりをそれぞれ進めること
ができた。反面、コロナ禍にあって1つの授業を全教職員で参観し、児童生徒のキャリア発
達を促す指導について協議することが難しい状況であった。また、京都府学力診断テスト、
全国学力・学習状況調査が中止となったため、府や全国と比較した客観的な学力を把握する
手段がなかったのが残念であった。

(2) 主体的に学ぶ生徒の育成にかかわって

家庭学習を推進するために、学習材料（プリント等）を生徒自身が興味や習得状況に応じ
て選べるようにしたり、各教科担当が提出した日に確認して返却したりするシステムを構築
できた。一方で、全生徒が個に応じた効果的な学習ができていたかを把握する手段を講じる
必要を感じた。

(3) カリキュラム・マネジメントにかかわって

企業連携の取組ではアンケートを実施して、そのデータを活用することで、発表内容に裏
付けと深みを持たせることが出来たこと、取組を通してプレゼンテーションする力を育てた
のは大きな成果と考える。コロナ禍により多くの取組が中止となり、懸念された授業時間の
確保も早々に克服できたため、多くの時間を企業連携の取組に充てることができたが、来年
度以降、膨大な時間をこの取組にかけるのは難しいと考える。各教科と連携し、より効率よ
く学習を進める計画を立てる必要がある。また来年度児童生徒に配布される1人1台のタブ
レットを利活用し、オンラインでの企業との連携やシンキングツールの活用でより効率よく
効果的な学習を進めることができないかと考える。

6 3年次の研究構想

(1) 研究主題

学ぶ意義や目標を持ち、主体的に行動する児童生徒の育成

～キャリア発達にかかわる資質・能力を育むための新しい時代の授業実践～

(2) ねらい・意図

Society5.0時代を生き抜く人材の育成を目的に、日々の授業実践から課題解決型学習をよ
り効果的にスムーズに行えるよう、1人1台のタブレットを効果的に利活用しながら授業改
善をすすめる。